

前回までの議論の整理

第2期計画の対象施設の考え方

【これまでの検討委員会での意見・ポイント】

- ・実効性を高めるためには、財源を踏まえた計画とする必要
- ・改修サイクルを回すことの重要性
- ・改修サイクルを適切に回せないと耐用年数を迎えるが改修できない施設が発現する。

総合的に勘案して

計画対象施設：優先順位上位20施設程度を着手

それでも残る課題

①第2期計画期間内に耐用年数を迎える施設の対応方針

劣化状況調査、構造診断などを実施し、調査結果で問題が発生しなかった場合は、第3期計画以降に、それぞれの施設が計画対象に入った際に改修を行うことを想定する。

②延床面積縮減方策への言及

このままの改修サイクルで進むと、第5期を終えても、一度も改修ができない、また、耐用年数を迎えるのに改修ができていない施設が発現する。

この課題に対し、「①改修スピードをあげる」、「②長寿命化サイクルを20年から伸ばす」、「③施設の全体数を見直す（施設の統廃合など）」の対策が想定されるが、改修等に係る財源や人員に限りがあることや、今後の人口減少を迎える中で、公共施設の需要変化などを考慮すると、「③施設の全体数を見直す（施設の統廃合など）」現実的であり、第2期計画内で第3期以降の延床面積縮減方策について、言及すべきと考える。